

2022年8月30日

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

2022年度 災害不安ランキング

～不安に思う災害 1位は「地震」、災害に不安を多く感じている年代 1位は「40代」～

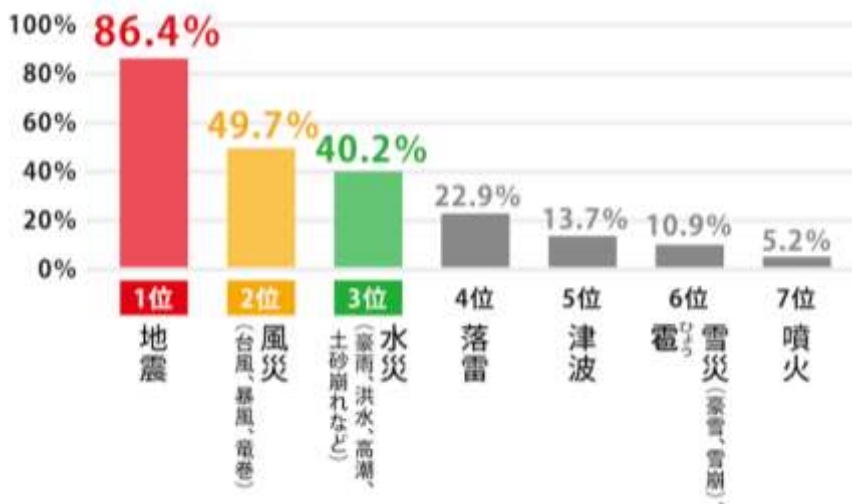
近年、地震や豪雨などの自然災害が多発しており、火災保険で対応する事故のうち 6 割超の原因を自然災害が占めるようになってきました。（別紙【参考 1.】）

ジェイアイ傷害火災保険株式会社（代表取締役社長：金子和彦）では、皆様が災害のリスクを認識し、必要な対策を検討していただくことを目的として、防災の日にあわせて、各地域・年代の方々に不安に思う災害についてアンケートを実施しました。結果、不安に思う災害 1位は「地震」、災害に不安を多く感じている年代 1位は「40代」となりました。

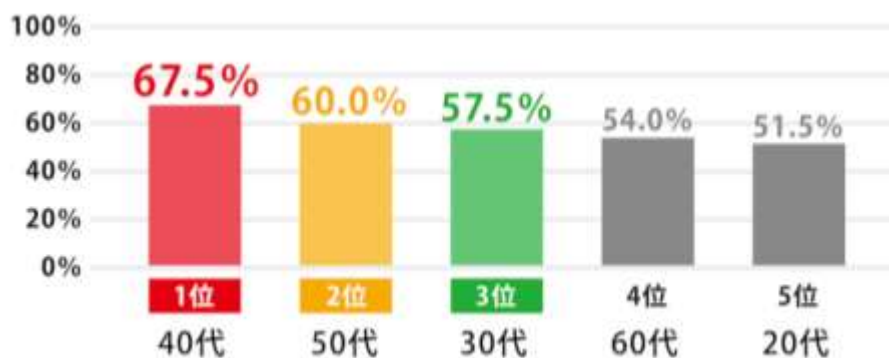
また、防災への取り組み等のアンケートも併せて行い、別紙のとおりまとめました。

1. 結果：

①不安に思う災害ランキング



②災害に不安を多く感じている年代ランキング



注) ①複数回答となります。また、災害の種類は多岐に渡りますが、当調査では自然に発生する災害（落雷を含む）に限定しています。

②Q1.の「とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている」及び「やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている」と回答した方の合計（20代から60代を対象）

2. 上記以外の結果サマリー：

* 本調査データの詳細は以下リンクからもご覧いただけます。

URL：<https://www.jihoken.jp/mado/cat1/7869/#bessi>

①災害で失うことに不安を感じる 1 位は「自身の生命や健康」⇒詳細 Q3.

6 割超の方が、生命や財産を失うことに不安を感じていますが、「住み慣れた土地や日常生活」も 48.4%と高い割合になっています。また、防災の準備が進んでいる方は不安が比較的少ない結果となりました。

②防災の取り組み 1 位は「食料や飲料水などの備蓄」、入手したい情報 1 位は「安否確認方法」⇒詳細 Q4. Q5.

「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みの 1 位は「食料や飲料水などの備蓄等」で 3 割弱の方が回答しています。今後入手したい情報の 1 位は「家族などの安否確認方法」で 33.8%となっています。

③防災の取り組みが難しい理由 1 位は「災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない」⇒詳細 Q6. Q7.

防災に十分に組み合っていない回答は 78.3%と高い割合になっています。なお、災害への不安を高く感じている層であっても半数以上の方は取り組みが進んでおらず、不安が行動に必ずしも結びついていない結果となりました。

④保険に対する不安 1 位は「保険金がどの程度支払われるかわからない」⇒詳細 Q9.

地震及び火災保険に加入している方のうち、43.6%の方が保険金に関する不安、30.8%の方が保険金を受け取るまでの期間を不安に感じており、保険のわかりにくさを感じている結果となりました。

3. 調査概要：

- ①サンプル数：1,000 名
- ②対象：20 代～60 代 各 200 名を以下の全国 10 地域において人口比で設定
北海道、東北、北関東・甲信、南関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄
- ③方法：インターネット調査
- ④期間：2022 年 7 月 22 日～7 月 24 日
- ⑤設問：10 問（上位表示の項目に回答が偏らないよう質問時に項目をランダムに表示）

4. 利用条件：

当記事内容は以下の条件を全て満たす場合に限り、転載いただくことが可能です。

- ①出典元として「ジェイアイ傷害火災保険（株式会社）」を明記してください。
- ②ニュース等の音声で利用する場合は「ジェイアイ傷害火災保険調査」と伝えてください。
- ③ウェブサイトを利用する場合は、弊社補償選択型住宅用火災保険「ieho いえほ」へのリンクを設置してください。
<https://www.jihoken.co.jp/kasai/ih/>
- ④弊社の判断により、掲載の中止を依頼した場合は、速やかに削除してください。

以上

2022年8月30日発表

ジェイアイ傷害火災保険株式会社
2022年度 災害不安ランキング

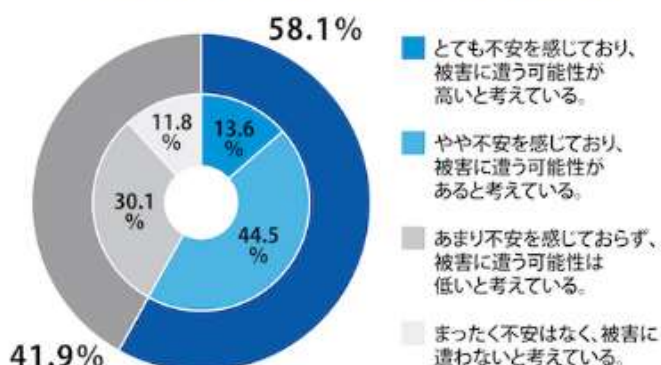
設問内容

- Q1. あなたは、災害に不安を感じていますか。
- Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q3. あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。
- Q4. あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。
- Q5. あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q6. あなたは、防災について十分に組み組んでいると思いますか。
- Q7. 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。
- Q9. あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q10. 地震に関する保険について、あなたがご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

Q1. あなたは、災害に不安を感じていますか。(n=1,000)

とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	13.6%	58.1% 不安が多い
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	44.5%	
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	30.1%	41.9% 不安が少ない
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている	11.8%	

あなたは、災害に不安を感じていますか



「とても」「やや」を合算すると 58.1%の方が災害に不安を多く感じています。

年代別に見ると 40 代が不安を感じる割合が最多の 67.5%となっています。一方 20 代の 25.5%が「まったく不安はない」と回答するなど、年代により、不安の度合いが大きく異なっています。

【上記設問の年代別分析】

		不安が多い			不安が少ない		
		合計	とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	合計	あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている
1位	40歳以上 50歳未満	67.5%	20.5%	47.0%	32.5%	26.0%	6.5%
2位	50歳以上 60歳未満	60.0%	11.0%	49.0%	40.0%	33.5%	6.5%
3位	30歳以上 40歳未満	57.5%	15.0%	42.5%	42.5%	27.5%	15.0%
4位	60歳以上 70歳未満	54.0%	9.5%	44.5%	46.0%	40.5%	5.5%
5位	20歳以上 30歳未満	51.5%	12.0%	39.5%	48.5%	23.0%	25.5%

Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=882 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

1位	地震	86.4%
2位	風災（台風、暴風、竜巻）	49.7%
3位	水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	40.2%
4位	落雷	22.9%
5位	津波	13.7%
6位	雪災（豪雪、雪崩）、雹	10.9%
7位	噴火	5.2%
	その他	0.3%

大半の方が地震への不安を感じていますが、台風などの風災や、豪雨などの水災への不安も高まっています。

地震以外の災害不安は地域により大きく異なります。台風の上陸が多い九州・沖縄にお住まいの方は風災、また落雷の発生数も地域で差があり、北関東・甲信で不安が高い割合となっています。南海トラフ地震の影響が懸念されている四国や東海地方は津波への不安も高まっています。

【上記設問の地域別分析】

	風災 (台風、 暴風、竜 巻)	水災 (豪雨、 洪水、高 潮、土砂 崩れなど)	雪災 (豪雪、 雪崩)、 雹	落雷	地震	噴火	津波	その他
北海道	64.5%	38.7%	54.8%	32.3%	90.3%	6.5%	22.6%	0.0%
東北	49.2%	37.3%	25.4%	25.4%	84.7%	6.8%	18.6%	0.0%
北関東・甲信	53.6%	37.7%	11.6%	37.7%	89.9%	5.8%	4.3%	1.4%
南関東	43.5%	34.6%	6.9%	17.3%	86.2%	6.2%	8.8%	0.4%
北陸	54.3%	45.7%	37.1%	17.1%	82.9%	2.9%	11.4%	0.0%
東海	43.4%	39.6%	7.5%	21.7%	88.7%	5.7%	21.7%	0.0%
近畿	51.0%	37.8%	4.2%	23.8%	89.5%	2.8%	15.4%	0.7%
中国	49.0%	57.1%	16.3%	28.6%	79.6%	6.1%	16.3%	0.0%
四国	37.9%	69.0%	3.4%	10.3%	86.2%	3.4%	27.6%	0.0%
九州・沖縄	65.3%	44.6%	2.0%	25.7%	82.2%	5.0%	11.9%	0.0%

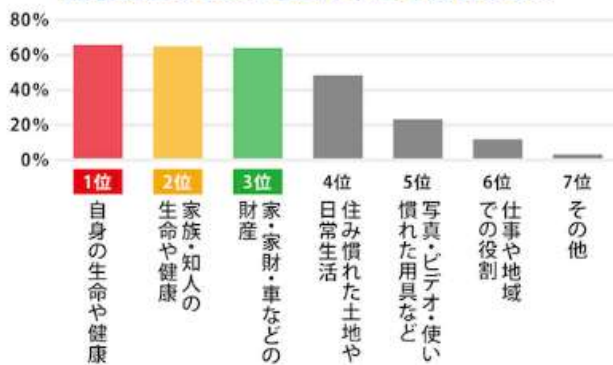


Q3. あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=882 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

1位	自身の生命や健康	65.9%	生命や財産
2位	家族・知人の生命や健康	65.1%	
3位	家・家財・車などの財産	64.1%	
4位	住み慣れた土地や日常生活	48.4%	それ以外
5位	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	23.4%	
6位	仕事や地域での役割	11.9%	
7位	その他	0.8%	

災害によって失うことに不安を感じるもの



「生命」と「財産」がほぼ同率で上位ですが、大規模災害時には一瞬で奪われてしまうこともある「住み慣れた土地や日常生活」も約半数の方が選択しています。

後述の「Q6. あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。」の結果と照らし合わせると、「十分に取り組んでいる」方は、生命や財産の不安が比較的少なく、準備を行うことで不安を多少減らすことも可能と言えます。

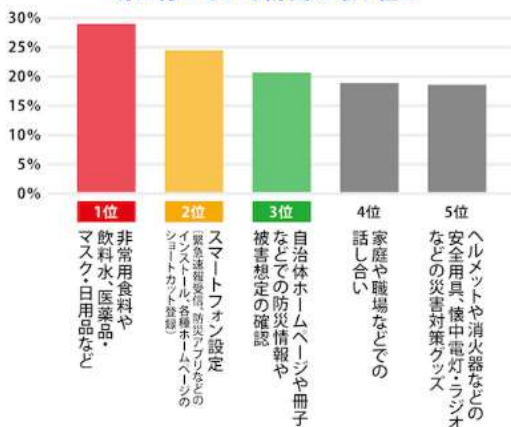
【上記設問の Q6. (防災の取り組み) とのクロス分析】

	生命や財産			それ以外			
	自身の生命や健康	家族・知人の生命や健康	家・家財・車などの財産	住み慣れた土地や日常生活	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	仕事や地域での役割	その他
十分に取り組んでいる (1.9%)	41.7%	41.7%	33.3%	25.0%	50.0%	33.3%	0.0%
十分ではないが取り組んでいる (19.8%)	64.7%	67.4%	65.8%	43.7%	22.6%	13.2%	0.0%
あまり取り組めていない (49.4%)	66.9%	67.6%	64.4%	52.5%	22.9%	10.6%	0.6%
全く取り組めていない (28.9%)	65.9%	58.7%	63.5%	44.7%	23.6%	12.5%	1.9%

Q4. あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。(n=1,000 複数回答)

		既に行っている	今後行いたい
①情報入手・シミュレーション			
1位	スマートフォン設定（緊急速報受信、防災アプリなどのインストール、各種ホームページのショートカット登録）	24.5%	14.1%
2位	自治体ホームページや冊子などでの防災情報や被害想定の確認	20.7%	14.4%
3位	家庭や職場などでの話し合い	18.9%	15.6%
4位	防災訓練・避難訓練などへの参加	10.4%	12.0%
5位	その他の情報入手・シミュレーション	0.0%	0.6%
②備蓄・整理			
1位	非常用食料や飲料水、医薬品・マスク・日用品など	29.0%	23.7%
2位	ヘルメットや消火器などの安全用具、懐中電灯・ラジオなどの災害対策グッズ	18.6%	16.1%
3位	貴重品や生活必需品などの非常持ち出し品	16.1%	21.2%
4位	生活用水（お風呂やポリタンクでの貯水）	15.6%	16.0%
5位	ガソリンを常時満タン近くに給油	9.0%	10.8%
6位	予備電源（太陽電池や電気自動車のバッテリー）	6.9%	17.2%
7位	その他の備蓄・整理	0.0%	0.8%
③家屋対策			
1位	家具などの転倒・重量物の落下防止	15.3%	16.4%
2位	耐震性能の確認や補強	5.9%	11.5%
3位	ガラスの飛散防止・固定、強化ガラスの取り付け	5.0%	13.7%
4位	浸水防止（雨戸、土嚢や止水版の準備、排水溝の掃除）	3.7%	9.3%
5位	その他の家屋対策	0.1%	0.6%
④上記以外			
	その他の防災の取り組み	0.2%	0.6%

既に行っている防災の取り組み



防災の取り組みにおいて「既に行っている」「今後行いたい」とともに1位は②備蓄・整理の「非常用食料や飲料水、医薬品・マスク・日用品など」続いて①情報入手・シミュレーションの「スマートフォン設定」となりました。また、③家屋対策はコストや手間もかかるため他の項目と比べて取り組みが進んでいないようですが、（未実施だが）今後行いたいこととして、ガラスの飛散防止や耐震性能の確認などが挙げられています。

*①～④の各項目合算の順位としています。

Q5. あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

災害前		
1位	災害危険箇所や被害想定を示した地図（ハザードマップなど）	29.9%
2位	避難指示の種類や確認方法	26.0%
3位	備蓄量の目安	24.4%
4位	有用な防災アプリやホームページなど	19.4%
5位	会社や学校など普段過ごす施設の耐震性	12.0%
6位	防災に関する講演や訓練の開催情報	6.7%
	その他の災害前情報	0.1%
災害時		
1位	家族・同僚・知人などの安否確認方法	33.8%
2位	避難場所やそこまでの経路・移動方法	27.2%
3位	公的機関による支援や補償内容	22.4%
4位	初動対応（初期消火、電気・ガス取扱い）	20.4%
5位	救急患者の受入れ病院	16.0%
6位	交通機関停止時の帰宅方法	15.4%
7位	AEDや応急手当の方法	11.4%
8位	地域で自身が担うべき役割	10.1%
9位	ペットの対応方法	9.2%
10位	要配慮者（介護など）の継続方法	5.9%
	その他の災害時情報	0.1%

災害前に入手したい情報は「ハザードマップなど」が1位となっています。ハザードマップは、災害時に影響が想定される区域と避難に関する情報がまとめられたものであり、洪水、津波、土砂災害などを対象にしたものが作成されています。

国土交通省ではハザードマップのポータルサイトを公開しており、自宅や職場などの活動する地域を参照するとよいでしょう。

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

災害時に入手したい情報は「安否確認方法」が1位となっています。今年発生した大規模通信障害が記憶に新しいですが、災害時は通信環境が極端に悪化する場合があります。

災害用伝言ダイヤル（171）・災害用伝言版（web171）の活用や災害地域への連絡は最小限にする心がけなども求められます。

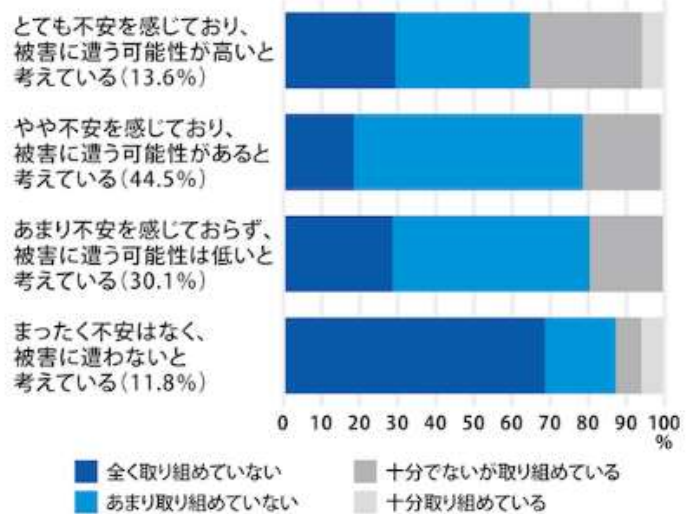
Q6. あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。(n=1,000)

全く取り組めていない	28.9%	取り組めていない 78.3%
あまり取り組めていない	49.4%	
十分ではないが取り組んでいる	19.8%	取り組んでいる 21.7%
十分に取り組んでいる	1.9%	

「全く」「あまり」を合わせ「取り組めていない」と回答した方が 78.3%になるなど、全体的に防災の取り組みが進んでいない回答となりました。

なお、Q1.で「とても不安を感じている」と回答した方のうち、「取り組めていない」割合は 64.7%、また「やや不安を感じている」と回答した方のうち、「取り組めていない」割合は 78.6%であり、不安はあるものの具体的な取り組みには至っていないという実態となります。

災害への不安度と、防災への取り組み



【上記設問の Q1. (不安度) とのクロス分析】

	取り組めていない			取り組んでいる		
	合計	全く取り組めていない	あまり取り組めていない	合計	十分ではないが取り組んでいる	十分に取り組んでいる
とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている (13.6%)	64.7%	29.4%	35.3%	35.3%	29.4%	5.9%
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている (44.5%)	78.6%	18.4%	60.2%	21.3%	20.4%	0.9%
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている (30.1%)	80.4%	28.6%	51.8%	19.6%	19.6%	0.0%
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている (11.8%)	87.2%	68.6%	18.6%	12.7%	6.8%	5.9%

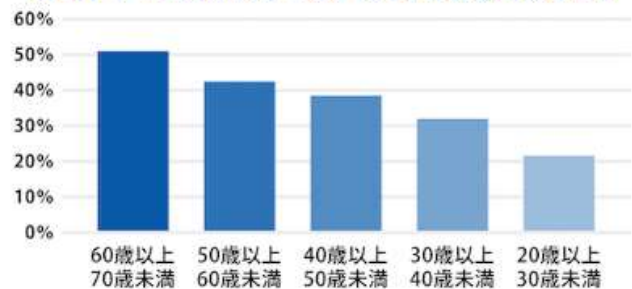
Q7. 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。
(n=1,000 複数回答)

1位	災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	37.1%
2位	費用がかかる	26.7%
3位	非常食の賞味期限の管理	24.5%
4位	特に難しいと感じる点はない	21.9%
5位	知識がないので、何から始めたらよいかわからない	20.8%
6位	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	18.8%
7位	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかかわからない	17.6%
8位	効果があるかわからない	12.4%
9位	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	6.0%
	その他	0.6%

1位は「災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない」となりました。「天災は忘れた頃にやってくる」という有名な言葉もあり、できることから取り組んでいく必要があります。

また、上記回答者を年代別に分析すると、年代が高い順に回答割合が高くなっており、人生経験が増えるに従い、徐々に緊張感が薄れていく傾向となりました。

災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない



【上記設問の年代別分析】

	災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	費用がかかる	効果があるかわからない	知識がないので、何から始めたらよいかわからない	非常食の賞味期限の管理	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかかわからない	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	その他
60歳以上 70歳未満	51.0%	11.0%	24.5%	13.0%	13.5%	31.0%	21.0%	4.5%	0.5%
50歳以上 60歳未満	42.5%	20.5%	27.5%	13.5%	21.0%	26.5%	18.0%	3.5%	0.5%
40歳以上 50歳未満	38.5%	21.5%	33.0%	14.0%	22.5%	24.5%	16.5%	7.5%	0.5%
30歳以上 40歳未満	32.0%	21.5%	28.0%	12.0%	27.5%	24.5%	18.0%	7.0%	1.5%
20歳以上 30歳未満	21.5%	19.5%	20.5%	9.5%	19.5%	16.0%	14.5%	7.5%	0.0%

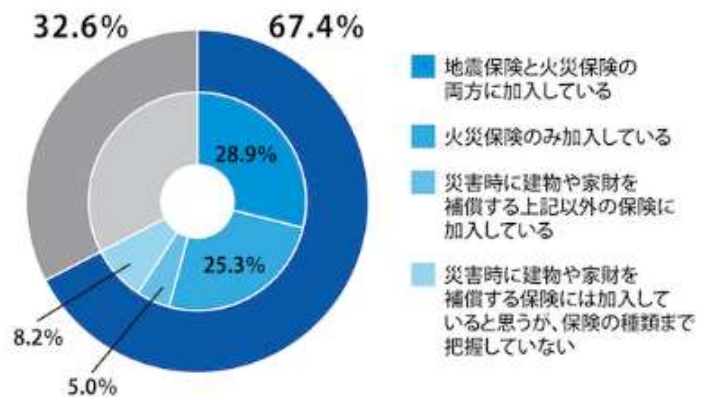
Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。（n=1,000）

地震保険と火災保険の両方に加入している	28.9%	加入 67.4%
火災保険のみ加入している	25.3%	
災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	5.0%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	8.2%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない	32.6%	未加入 32.6%

何らかの保険等に加入されている方が約 2/3、未加入の方が 1/3 という結果になりました。

「Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。」と照らし合わせると、地震保険で補償される地震・津波・噴火を不安に思う方でも、該当リスクを補償する保険に加入されている方は 3 割にとどまる結果となりました。

災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）への加入状況



【上記設問の Q2.（不安に思う災害）とのクロス分析】

	地震保険と火災保険の両方に加入している	火災保険のみ加入している	災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない
不安に思う災害					
地震	31.8%	28.2%	4.6%	8.4%	27.0%
風災（台風、暴風、竜巻）	33.6%	31.7%	3.7%	8.4%	22.6%
水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	35.2%	24.8%	4.8%	10.1%	25.1%
落雷	28.7%	31.2%	5.9%	9.4%	24.8%
津波	28.9%	26.4%	7.4%	8.3%	28.9%
雪災（豪雪、雪崩）、雹	21.9%	40.6%	8.3%	7.3%	21.9%
噴火	32.6%	21.7%	8.7%	10.9%	26.1%

Q9. あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。(n=1,000 複数回答)

1位	保険金がどの程度支払われるかわからない	31.7%	不安がある
2位	補償内容・範囲がよくわからない	31.6%	
3位	保険金がすぐに受け取れるかわからない	24.2%	
4位	事故の際にどのように手続すればよいかわからない	22.1%	
5位	保険料（掛け金）が高額化している	18.8%	
6位	その他	0.3%	
	特に不安はない	31.8%	不安はない

不安はないとの回答が約 3 割となり、残りの約 7 割の方（複数回答）が、保険に対して何らかの不安を感じています。1 位と 2 位は保険金や補償内容となっており、改めて契約内容の確認が必要と言えます。3 位と 4 位は保険金請求に関する不安であり、災害発生前から保険会社のホームページなどでの確認が必要となります。また、火災保険の最長保険期間の短縮化（10 年から 5 年）や自然災害多発による値上げなどもあり、保険料に対して不安を感じている方が 18.8%となりました。

「Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか」と照らし合わせると、地震及び火災保険に加入されている方のほうが、より保険金に関する不安が高くなっています。これは「保険商品をわかりやすく伝える」保険会社側の課題も表れていると考えられます。

【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】

保険加入状況	保険金がどの程度支払われるかわからない	補償内容・範囲がよくわからない	保険金がすぐに受け取れるかわからない	事故の際にどのように手続すればよいかわからない	保険料（掛け金）が高額化している	その他	特に不安はない
地震保険と火災保険の両方に加入している (28.9%)	43.6%	27.3%	30.8%	23.5%	21.1%	0.0%	25.3%
火災保険のみ加入している (25.3%)	36.0%	39.9%	30.4%	22.5%	16.2%	0.8%	21.7%
上記以外の保険に加入している (5.0%)	28.0%	30.0%	16.0%	34.0%	22.0%	0.0%	10.0%
加入していると思うが、保険の種類まで把握していない (8.2%)	32.9%	45.1%	23.2%	30.5%	9.8%	1.2%	20.7%
加入していない (32.6%)	18.1%	25.8%	15.0%	16.6%	20.6%	0.0%	51.5%

Q10. 地震に関する保険について、あなたのご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

1位	特に知っている内容はない	54.9%
2位	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	25.8%
3位	保険料の税額控除がある	22.3%
4位	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	11.5%
5位	通常の地震保険では火災保険契約金額の5割しか補償されないが、上乘せ可能な商品がある	6.9%
6位	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	6.5%
7位	その他	0.1%

地震保険については、全般的に知られている内容の割合が低く、地震リスクが火災保険では補償されないことも25.8%の認知度にとどまりました。

また、「Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか」と照らし合わせると、火災保険のみ加入の方のうち、火災保険では地震リスクが補償されないことをご存知の方が3割にとどまるなど、不安に思う災害内容とご自身で加入する保険内容の再確認が必要と言えます。

なお、地震保険に加入されている方で、上乘せ可能な商品の認知度も8%にとどまっています。地震保険では火災保険の契約金額の最大50%までの補償となっていますが、これでは全壊であっても再建することが困難になります。そのため東日本大震災の後に、差額の50%分の上乗せ補償が可能な商品が開発されています。

【上記設問のQ8.（保険加入）とのクロス分析】

保険加入状況	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	保険料の税額控除がある	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	通常の地震保険では火災保険契約金額の5割しか補償されないが、上乘せ可能な商品がある	その他	特に知っている内容はない
地震保険と火災保険の両方に加入している（28.9%）	39.4%	20.1%	46.0%	8.0%	8.0%	0.0%	30.1%
火災保険のみ加入している（25.3%）	32.4%	8.7%	19.4%	6.3%	5.5%	0.0%	52.6%
上記以外の保険に加入している（5.0%）	16.0%	26.0%	18.0%	28.0%	20.0%	2.0%	30.0%
加入していると思うが、保険の種類まで把握していない（8.2%）	17.1%	9.8%	12.2%	7.3%	11.0%	0.0%	63.4%
加入していない（32.6%）	12.3%	4.3%	6.7%	1.8%	4.0%	0.0%	80.4%

（注）火災保険でも地震火災費用保険金など、被害内容により一部補償される特約がありますが、補償内容が地震保険と比較して大幅に限定されているため、一般的な知識として上記の設問としています。

【参考 1.】火災保険（住宅物件）の事故件数のうち自然災害による原因が占める割合

事故種別	件数	割合	区分
風災・ひょう災	1,871,464	52.8%	自然災害 63.5%
雪災	195,670	5.5%	
落雷	141,160	4.0%	
水災	41,401	1.2%	
水濡れ	226,905	6.4%	その他 36.5%
火災・破裂・爆発	35,686	1.0%	
その他	1,032,188	29.1%	
合計	3,544,474	100.0%	

* 出展：損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況/火災保険住宅物件事故種別支払統計表（2016-2020 年度を合計）」

* 上記統計では落雷は自然災害以外に分類されていますが、当調査では自然災害に含んでいます。

* その他は、盗難、物体の落下、破損・汚損、電氣的・機械的事故等に対する保険金を集計したものです（不明を含みます）。

* 地震保険の事故件数は上記件数に含んでいません。

【参考 2.】補償選択型住宅用火災保険選択型火災保険「ieho いえほ」

災害に対し、必要な準備は多々ありますが、その一つに保険加入があります。弊社では、不安に思う災害に併せて補償をカスタマイズ可能なインターネット専用火災保険「[ieho いえほ](#)」を取扱いしております。

【参考 3.】弊社の SDGs への取り組み

前述のとおり、現在火災保険の事故のうち 6 割以上が自然災害によるものとなっており、近年の異常気象と地球温暖化による気候変動との関連性も指摘されています。

弊社では国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）への取り組みを推進しています。現在は「紙がない保険会社」をキャッチフレーズに、ペーパーレス・デジタル化に取り組んでおり、[tabiho たびほ](#)（リスク細分型特定手続用海外旅行保険）、[ieho いえほ](#)（補償選択型住宅用火災保険）などインターネットで申込可能な商品を強化しています。また、[ieho いえほ](#)では業界に先駆けて、通常契約時に必要な登記簿謄本を WEB 上で確認可能なシステムを開発しており、併せて社内業務全般でもペーパーレスに取り組んでいます。

紙の削減効果以上に電力消費が増加しないように併せて業務効率化への取り組みも強化し、貢献としては僅かかもしれませんが、少しでも皆様が不安を感じている自然災害の減少に繋がるよう環境を意識した保険会社を目指しています。

以上